



足立議員

## 温暖化先取りし対策を

### 8月豪雨被災地域を視察

自民党の足立敏之参院議員は、2021年8月豪雨の被災地域を視察した。写真。足立議員は「これまでの防災・減災、国土強靱化の取り組みが効果を上げていることを確認した。5か年加速化対策を引き続き進める必要がある」とする一方で、「内水被害など新たな課題も出ている。流域治水など新たな施策を駆使し、温暖化による大雨を先取りして対策を打つことが大事だ」と述べた。

8月24日に福岡県と佐賀県、同30日に富山県、同31日に長野県、9月1日に岐阜県の各被災地域を訪れた。今回の災害について、「ピークが分散していたがトータル雨量は18年の西日本豪雨に匹敵するもので、長雨による構造物への被害が各地で見られた。また、近年の大雨の傾向として被災地域で再度発生するケースが顕著だ」と振り返った。

インフラの整備効果については、「佐賀市の金立川に整備中の砂防堰堤では竣工前であるにもかかわらず、大量の土砂をため込み下流の被害を軽減した」事例を説明。試験溝水中に洪水被害を軽減したハツ場ダムになぞらえて「砂防版ハツ場ダムとも言える事例だ」と効果を広く発信してきたいと述べた。

24時間体制で災害復旧に当たった各地の地域建設企業とも意見を交換し、通行止めの影響を抑えるためのバイパス整備や4車線化などを要望された。